

活動のタイトル

あぐりの丘「福祉農園」

長崎県 平元昭義

活動の背景と目的

富民協会・毎日新聞社発行の「農業と経済」のなかで、九州大学院農学研究員教授松尾英輔氏が書かれていた「園芸療法・園芸福祉の可能性を探る」の記事にヒントを得て、長崎市中心身障害者団体連合会に働きかけ、心身障害者と一緒に農園芸を行う場づくりを目指し福祉農園活動を始めた。



活動の内容

- ・ 年間行事については、春・夏・秋の3段階に分け、作付け・管理・収穫の計画をたてる。
- ・ 利用者数は、約200人くらいである。
- ・ 施設はビニールハウス（1棟・120平米）、イチゴ畑（375平米）、野菜各種の畑がある。



（これまでの主な活動として）

- ・ 平成14年6月/市長の参加も得て、くわ入れ式とかんしょ植え付け（参加者は約70名）

- ・ 同年 11月/かんしょの収穫祭（参加者は約70名）
- ・ 平成15年3月/市職員の参加を得てのイチゴの収穫祭（参加者は約70名）
- ・ 同年 12月/市長出席によるかんしょの収穫祭（参加者は約90名）

運営や体制

団体数は21団体あるが、そのなかから選任された10人程度の園芸福祉推進委員を中心に活動が進められている。費用は年間予算300,000円程度である。

地域との関わり

長崎市中心身障害者団体連合会の事業として取り組んでいる。年2回実施している収穫祭には、市長を始めとして所管の部課長の出席も得ている。



これまで苦労した点や今後の課題

21団体であるため、まとめるのが大変である。今後は、活動の中心になってくれる人材の育成をはかり、園芸福祉推進委員を20名程度にしたい。